

「ていねいに暮らす」を畳から—Part A



ぼくは、大学を卒業した後、3年間、銀行で働きました。でも、家業をまもっていきたくて、銀行をやめて、畳屋をつぐことにしました。

畳の仕事は、父に教えてもらいましたが、それだけではなく、自分にしかできないことをやりたいと思

ました。その一つが、じゅうどうの畳です。

父も、じゅうどうの畳を作っていましたが、ぼくはもっとオリジナルなものにしたいくて、

いろいろな挑戦をしました。そして、オリン

ピック金メダリストの古賀稔彦さんにフィー

ドバックをもらって、改良をかさねて、

「柔道畳：三四郎」という畳をつくりました。



三四郎畳。6～8層になっていて、ふつうの畳よりもクッション性がある。

畳は、夏は湿気をすうから、べたべたしません。冬はあたたかいです。

じゅうどう畳の表面はレザーですが、このような畳のよさをもっているレザーを

開発してもらいました。



うちの会社のコンセプトは「ていねいに暮らす、を畳から」です。「ていねいに」は手をぬかないということだけではありません。人の思いをたいせつにしながら、自分がいいと思うことをやっていくことだと思います。

いい仕事をするためには技術だけでなく、想像力が必要です。たとえば、南向きか、

北向きか、子ども部屋か、家族があつまる部屋か、などによって、ちがう畳を提案

します。いい仕事をするためには、このような想像力が大切なんです。これが「ていねいに仕事をする」「ていねいに暮らす」ことだと思います。



畳のへり。いろいろな色やもようがある。



ワークショップで作る A4 サイズの畳。
好きなへりをえらんで作る。

15、6年前から、子どもたちのための、^{たみ}畳のワークショップを^{おこな}行っています。子どもたちは、A4 サイズくらいの小さな畳を作ります。

それから、畳ができあがるまでに、どんな人たちがどういうふう^{かか}に関わっているのかを話します。今はボタン一つで、なんでもほしいものが手に入る^{じだい}時代ですね。だから、子どもたちに畳について話すのです。畳の^{こうぞう}構造、イグサのこと、^{のうか}農家さんのこと。いっぱい、いっぱい話します。畳がこんなふう^{かか}にできていく、ということを知ってほしいのです。そして、「じゃあ、あれはどうやって、どんな人が作ったんだろう」と、ほかの物についても^{そうぞう}想像してほしいと思います。

それを想像すると、ものを^{だいじ}大事にする^{こころ}心が生まれます。これが「ていねいに」^く暮らすことだと思います。



15、6年前から、子どもたちのための畳のワークショップを行っている。



オリジナルのかみしばいもつくった。
前田さんがストーリーを考えた。

Part A Vocabulary list

ていねいに	Thoughtfully; with care	手をぬかない	Work carefully; not cut corners
く暮らし	To live [daily life]	ぎじゆつ技術	Skill, technique
たたみ畳	Tatami – traditional rush flooring	そうぞうりよく想像力	Imagination
かぎよう家業をまもる	To keep the family business going	ひつよう必要	Necessary
たたみや畳屋をつぐ	Inherit a tatami business	みなみむ南向き	Facing south
自分にしかできないこと	Things that only I can do	きたむ北向き	Facing north
ちようせん挑戦をする	To give something a try	ていあん提案する	To make a suggestion
かいりよう改良をかさねる	To make continued improvement	どういうふうにかか わっているのか	How they are involved
しっけ湿気をすう	To absorb moisture; take up moisture	こうぞう畳の構造	The structure of tatami
べたべたしない	Not feel sticky, muggy	イグサ	Rush [grass]
ひようめん表面	Surface	のうか農家さん	Farmers (with honorific さん)
かいほつ開発する	To develop	ものを大事にする こころ心	Treasuring things (lit. cherishing things and taking good care of them)